

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第41号 平成21年12月7日

走りに走った須藤5盗塁

勝利したものの中弛み感のあったゲーム・・・



12/6(日)2度目の対戦となる、湘南マリナーズを大師公園野球場に迎えオープン戦を行った。昨日の降雨により、グランドコンディションは重い状態であったが、何とかゲームする事が出来た。これも球場管理者の考え一つで、使わせたいのか？大事にしたいのか？の差であろう。ゲームは、先攻、1、2番が四球を選択し出塁、絶好の先制チャンス、しかし、3、4番が、凡打に倒れ、まさかの0点かと思った矢先、5番竜が、きっちり三遊間を抜き、1点、セカンドランナーもホームを狙ったが、コーチャーの制止にて停止、しかし、中継プレーは、捕手の遙か左、判断は難しいが、回していたら、2点を先制出来た。結局この回は1点止まり。その裏、久々のマウンドに上がった達脇、しかし、先頭打者に13球も粘られ四球を献上、次打者には、ショート強襲安打、無死1、2塁、3番に、右中3を浴び、2点を献上、1死を取った後、前進守備の二遊間を破られ、3点目を与え、一気に逆転を許してしまった。2回は共に凡打で終わった、3回の攻撃、1死後、1番須藤が、ショートのエラーで出塁、その後は、2盗、3盗を決め、二番哲也も四球を選択、この大事な場面に先程凡打に終わった深沢が今度はきっちりセンター前に運び、同点、次打者は凡打に倒れたが、先程先制点を挙げた竜が、ここでもきっちり、中越に2ベースを放ち逆転に成功した。次の回にも長・短打で、2点を挙げ、今日のゲームをほぼ手中にした。そんなゲームで有るが、3点違和感を感じた。

まずは初回の3塁ランナー及び3塁コーチャー、相手の隠し玉により、チームの訴追ムードを消してしまった。走っている走者を補うのがコーチャー、だから、常にフィールドを見渡せるコーチャーは絶対にボールから目を切ってはいけない。次は、5回の2塁ランナー、モーションを旨く盗み、セカンドへ進塁したまでは良かったが、右飛の打球に素早く帰塁、その後タッチアップで次の塁を盗むセオリーに走れず、この走塁は基本です。ランナー共々コーチャーしっかりと。最後は、最終回、ゲームの音が掛かるまでは、野手はボールから目を切らない、勝ちはずれたけど、時間が有ったら危なかった。しかし、これらの凡プレーが無ければ、時間があっても大丈夫だった。今期も残すところは後1回の活動、最後は皆で笑って、今期を終了したい。そんな事を感じたゲームであった。